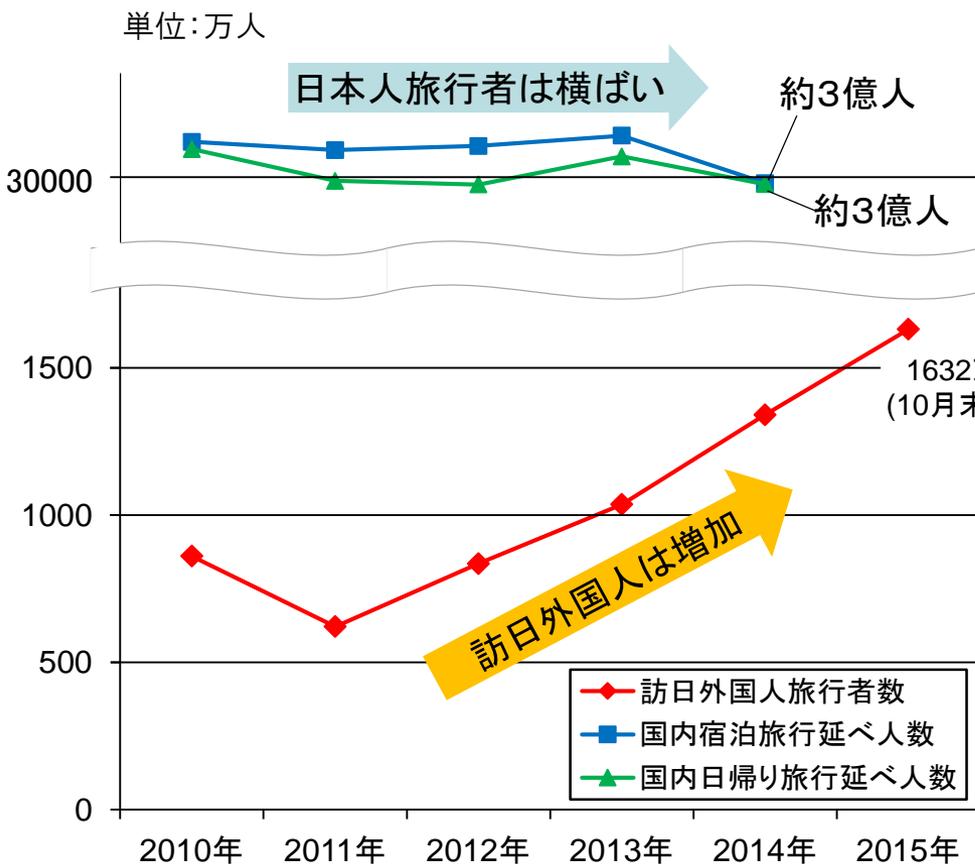


観光立国を支える道路施策について

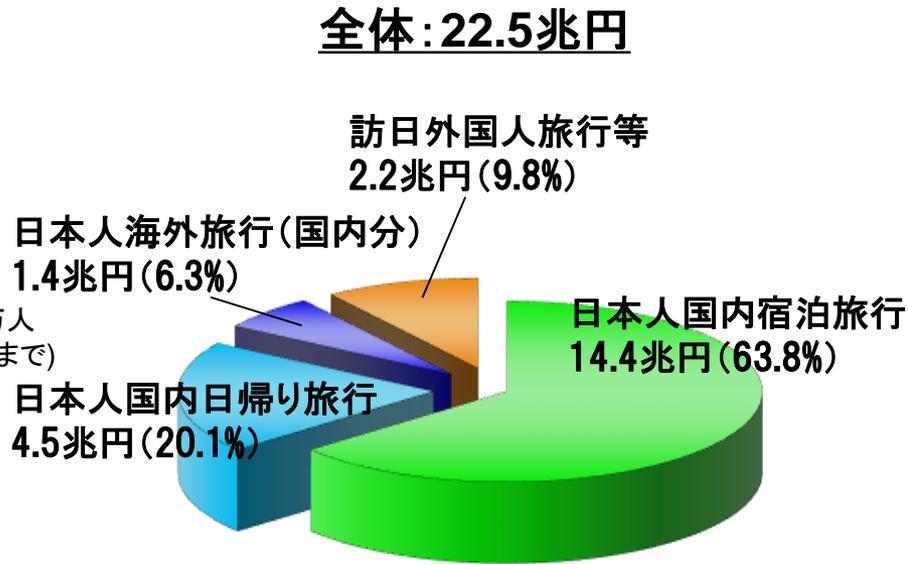
我が国の観光を取り巻く状況

○訪日外国人旅行者数は順調に増加し、年間2000万人達成間近。
 一方で、国内旅行については、ほぼ横ばいで推移。
 ○国内における旅行消費額の約9割は、日本人による消費。

■訪日外国人及び日本人旅行者数の推移



■国内における旅行消費額(2014年)



※数値は内閣府「国民経済計算」データによる補正前の暫定値であり、今後、改定があり得る。

出典)観光庁「旅行・観光消費動向調査」
 財務省・日本銀行「国際収支統計」より

注) 2014年以前の値は確定値、2015年1月～7月の値は暫定値、2015年8月～9月の値は推計値、%は対前年(2014年)比
 出典)JNTO(日本政府観光局)

観光立国を支える道路施策(案)

訪日外国人旅行者数2,000万人の「その先」も見据えた「質の高い」観光立国を実現

①円滑なアクセス

ネットワーク整備 スマートIC 渋滞対策 二次交通※

※二次交通とは、空港や 駅から観光目的地までの交通手段のこと
例) シャトルバス、レンタル自転車 など

観光地



④観光を作り出す

土木遺産 道路元標

⑤わかりやすい道案内

ナビゲーション 標識
旧集成館前 Shuseikan

③拠点づくり支援

SA・PA 道の駅

- ・外国人案内所
- ・Wi-fi
- ・免税店
- ・EV充電器
- ・地域内交通

②観光地での快適な空間づくり

オープン化 無電柱化

・担い手((仮称)道路協力団体)

□ : 今回議論

結節点

鉄道駅 バスターミナル 空港

日本の旅行者数・旅行消費額(H26)

[外国人]	旅行者数	: 約1,300万人
	旅行消費額	: 約 2.2兆円
[国内]	旅行者数	: 約 6億人
	旅行消費額	: 約 19兆円

※国内は、宿泊と日帰りの総数

観光の質を高めるための道路の主な取組

①円滑なアクセス	②観光地での快適な空間づくり	③拠点づくり支援	④観光を作り出す
<p>ネットワーク整備</p> <p>スマートIC整備</p> <p>交通結節点整備・改善</p>	<p>オープン化</p> <p>〔オープンカフェ レンタサイクル 広告 等〕</p>	<p>道の駅、SA・PAの活用</p> <p>〔駐車場、トイレの充実 観光案内・渋滞情報の提供 地域産品の商品開発・販売 等〕</p>	<p>観光資源としての道路</p> <p>〔街道 道路元標 土木遺産 風景街道 等〕</p>
<p>渋滞対策の推進</p>			
<p>二次交通との連携</p> <p>歩行者・自転車通行空間確保</p>	<p>無電柱化の推進</p> <p>空間の修景</p> <p>美化活動の推進</p>	<p>インフラツーリズム</p>	
<p>バリアフリー</p>			
<p>⑤わかりやすい道案内</p>			

連携

・地域住民 ・来訪者 ・**関係団体** ・道路管理者 等

(仮称)道路協力団体

- 全国の渋滞箇所において効果的な対策を推進するため、各都道府県単位等で道路管理者、警察、自治体、利用者団体等から構成される渋滞対策協議会を設置。
- 渋滞対策協議会で地域の主要渋滞箇所を特定し、ソフト・ハードを含めた対策を検討・実施。

渋滞対策協議会

- ・渋滞対策協議会において、渋滞対策を検討・実施
- ・毎年度、以下のマネジメントサイクルにより、主要渋滞箇所をモニタリングの上、随時見直し

渋滞対策協議会における議論

メンバー:道路管理者(国、自治体、高速道路会社)、警察、バス・タクシー事業者、観光団体等

- ・最新交通データによる渋滞状況検証
- ・交通状況に対する専門的見地からの検証

必要に応じ
地域の声の反映

地域の主要渋滞箇所の特定・見直し

ソフト・ハードを含めた対策の検討・実施

- ・地域の課題を共有することで道路管理者・道路利用者間での議論を促進

・円滑な渋滞対策の立案・実施を実現

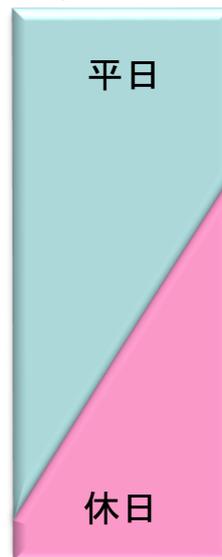
モニタリング等による検証

主要渋滞箇所

- ・主要渋滞箇所とは、最新交通データや地域の声を基に渋滞対策協議会において特定した、地域全体として渋滞を実感している箇所
- ・平成27年12月現在で、全国に9,099箇所

【主要渋滞箇所数】

9,099箇所



休日も渋滞している箇所
約7割(約6,000箇所)

- ・観光地
- ・大規模店舗
- ・レジャー施設 等

今後、きめ細かく要因を
分析し、対策を検討・実施

この他、高速道路上の主要渋滞箇所が302箇所

観光地周辺での渋滞

- 全国の観光地周辺では、年間を通じた休日の渋滞や、イベント時、観光シーズンの渋滞が発生しており、ソフト対策等を充実していくべきではないか。
- 最近では、外国人買物客の観光バスの路上駐車により、銀座、秋葉原等の商業地域周辺で渋滞が悪化しており、周辺商業施設、バス事業者、警察と連携した対策を強化すべきではないか。

全国の観光地周辺の渋滞

【年間を通じた休日の渋滞】

沖縄県名護市
沖縄本島北部(美ら海水族館等)
への観光交通



【イベント時の渋滞】

新潟県長岡市
長岡まつり花火大会



【観光シーズンの渋滞】

京都府京都市
秋の観光シーズン

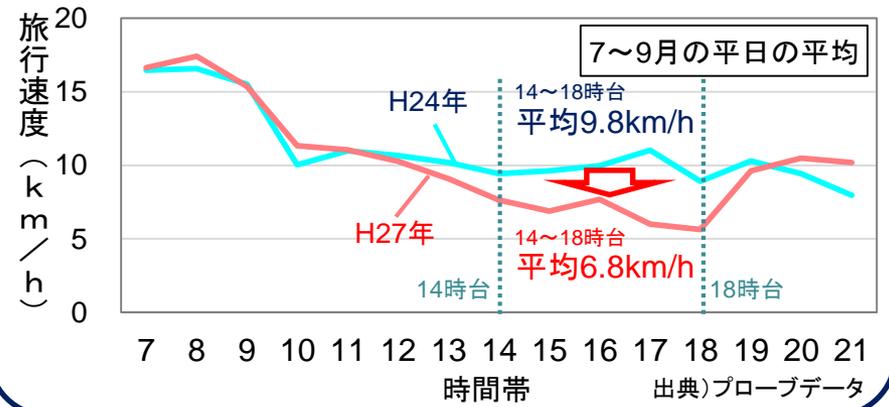


外国人買物客の観光バスによる渋滞



銀座 中央通りの路上駐車状況

■旅行速度の変化(銀座 中央通り)

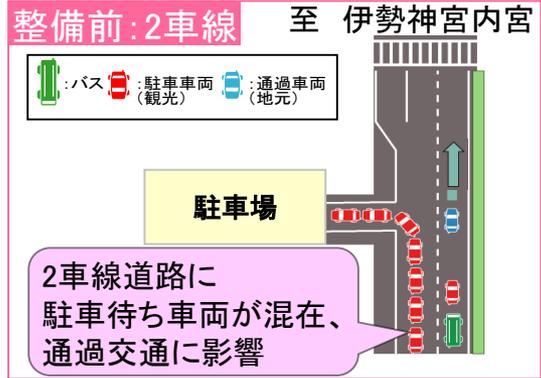


観光地における渋滞対策

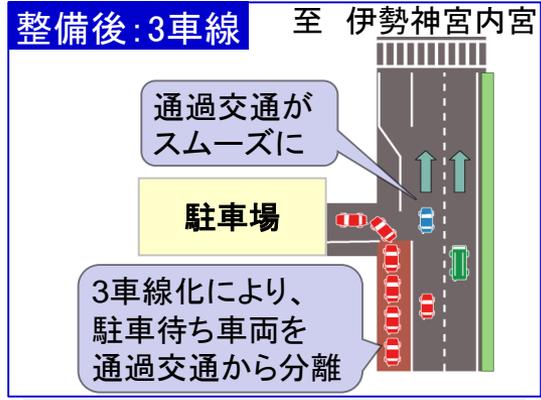
○観光地の魅力を高め、今後の更なるインバウンド観光需要に対応するため、地域や公共交通と連携し、ビッグデータを活用しながら既存の道路や駐車場の容量・空間を賢く使い、即効性のある対策を強化していくべきではないか。

既存の道路幅で車線運用の見直し

三重県・伊勢神宮周辺の対策事例



H25.12 3車線化(延長100m)



平均旅行速度が約10km/h向上

駐車場容量の効率的な運用

京都市・嵐山地区の対策事例

オンラインのバス専用駐車場予約システムにより、観光バスの駐車待ちを抑制(平成19年より、秋の行楽シーズンに実施)

- ・自家用車は駐車禁止
- ・混雑時は予約無しバスを他の駐車場へ案内



対策期間中の駐車場状況(H26.11)



潜在的な駐車場容量の活用

京都市全域における対策事例

秋の行楽シーズンに、通年のパーク&ライド駐車場(約6,600台分)に加え、企業や公共施設の敷地を活用して臨時の無料駐車場を開設(平成27年は約800台)



日新電機(株)本社; 150台



右京区役所跡地; 60台

○道路空間を活用した賑わいの創出や良好な景観の形成など快適な空間づくりを通じて、観光地の魅力を向上。

道路空間を活用した賑わいの創出

- ・オープンカフェの実施等、地域の賑わいを創出



良好な景観の形成

- ・道路の無電柱化と併せ、美しい景観を形成



埼玉県川越市



- ・沿道状況等と調和のとれた道路緑化の実施により、地域全体の価値を向上



- 非常時を含めた交通機能や安全を確保した上で、制約の少ない道路空間についてはオープン化を推進し、観光の振興にも寄与。
- 道路空間の活用を担う主体として道路協力団体(仮称)制度を創設すべきではないか。

【道路空間の活用イメージ】



公的活動

道路空間の修景



(富士宮市)

除草・植栽活動



(富士宮市)

不法占用調査*



収益活動

オープンカフェ



(名古屋市)

広告マネジメント

(イメージ)



(札幌市)

レンタサイクル



(高崎市)

*不法に設置された障害物に対する措置も併せて検討

- 「道の駅」は地域の観光振興を支える上でも重要な拠点。
- 外国人向け・有人観光案内所の設置、無料公衆無線LANの整備により、渋滞情報の提供やインバウンドも含めた観光案内を更に充実すべきではないか。

■外国人観光案内所



外国人対応可能なスタッフが常駐し、広域観光や交通情報を提供

■「道の駅」の総合案内窓口



観光コンシェルジュによる案内

■道の駅 SPOT(※)



トップページ画面(例)

JNTO認定外国人観光案内所
「道の駅」: 70駅 (7%)
(平成27年3月時点)

専属スタッフのいる観光案内所
350駅 (32%)
(平成27年3月時点)

- ・無料公衆無線LAN 532駅 (49%)
(H27.7月末現在)
- ・「道の駅」SPOT 13駅 (1%)
(H27.10月末現在)

※無料公衆無線LANを用いた道の駅のポータルサイト

JNTO認定外国人観光案内所総数: 525箇所 (H27.11月末現在)
道の駅総数: 1,079駅 (H27.11月末現在)

観光資源としての道路

○来訪者や地域の活動団体との連携により、歴史・文化的な価値を有する道路施設等をリバイバルし、観光資源として活用すべきではないか。

■歴史的・文化的な価値を有する道路施設の例

街道

- 宿場跡や関所跡などが残り、古の人・物の往来を支えた旧街道
- 街道を通じた歴史や文化の発信・体験、街道を活かした地域づくり等の取組を実施。(街道相互の交流や情報交換を展開)



旧旅籠つちや(長野県)



近畿地方での体験プログラム
(歴史街道 BINGO de ラリー)

体験プログラムの事例

道路元標

- 国道の起終点を示すものとして旧道路法施行令(大正8年)で法制化(日本各地に存在)



国道1号 日本橋の道路元標



奈良県里程元標(奈良市)

土木遺産

- 歴史的土木構造物の保存に資することを目的として土木学会が認定

土木遺産:98件
※土木学会認定のうち道路に関するもの

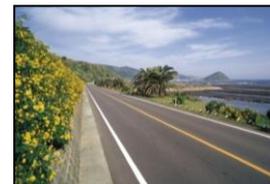


山形の石橋群(山形県)



風景街道

- 住民、NPO、企業等の多様な主体との協働のもと、道を舞台として、地域の風景、自然、歴史等の資源を活かした活動を展開
- 美しい国土景観の形成、観光振興、地域活性化に寄与



(日南海岸きらめきライン・宮崎県)

地域と一体となった魅力向上、観光ルートへの取り込み、道の駅等での発信、インフラツーリズムの展開等を通じて観光資源として活用

○道路施設等を観光資源として、民間企業等と連携しツアー等に活用すべきでないか。

■インフラツーリズムの実施例

『秘境八十里越体感バス』

日 程:平成27年6月21日(日)～11月8日(日)

主 催:(株)JTB関東



「秘境八十里越体感バス」企画パンフレット

『甲州夢街道ウォーク』

日 程:平成27年10月31日(土)

主 催:甲州夢街道(八王子・相模湖・藤野エリア)

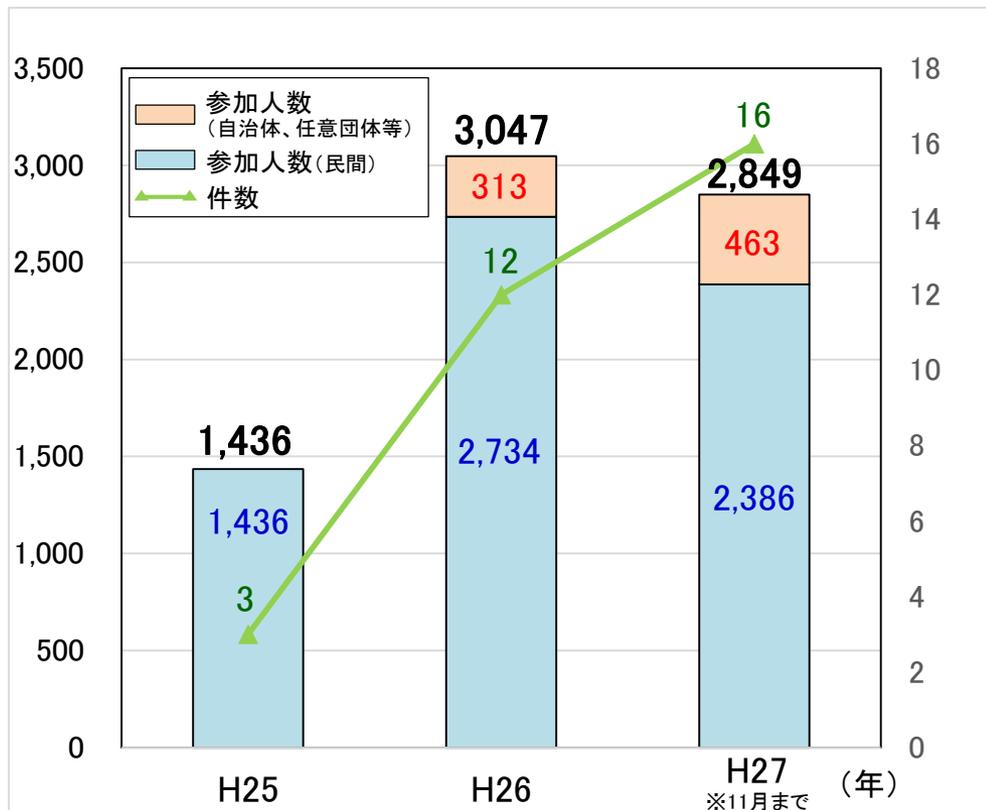


「甲州夢街道ウォーク」の実施状況

■国交省と民間企業等が連携した道路のインフラツーリズムの推移

(参加人数)

(件数)



※道路局調べ(H27.11時点)

わかりやすい道案内への取組

○主要な観光地等において、「ローマ字」表記から外国人にわかりやすい「英語」表記への改善や案内充実等の取組を更に推進※すべきではないか。

主要な観光地等における英語表記改善

- ・平成25年9月より、全国の主要な観光地49箇所等で道路案内標識の英語表記改善を実施（45箇所では現地施工着手（平成27年11月時点））



標識令に基づく告示による対訳表（下記抜粋）の活用

施設等	英語	施設等	英語
橋	Bridge	公園	Park
通り	Avenue /Street /Boulevard	山岳	Mountain
温泉	Onsen	河川	River

世界遺産の案内改善事例

- ・「旧集成館」(世界遺産)に隣接する交差点の交差点名標識を、「旧集成館前」の表示に変更【改善前】



【交差点名標識変更箇所】
国道10号 鹿児島市吉野町

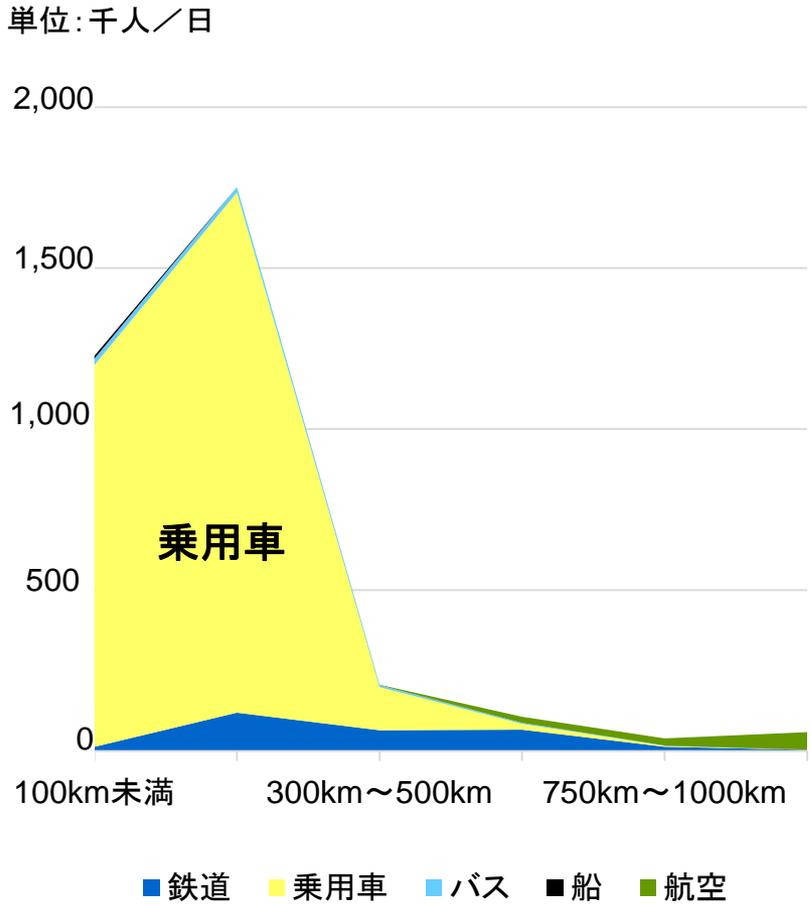
- ・「寺山炭窯跡」(世界遺産)へ最寄りのバス停から向かう歩行者のための道路案内標識を設置



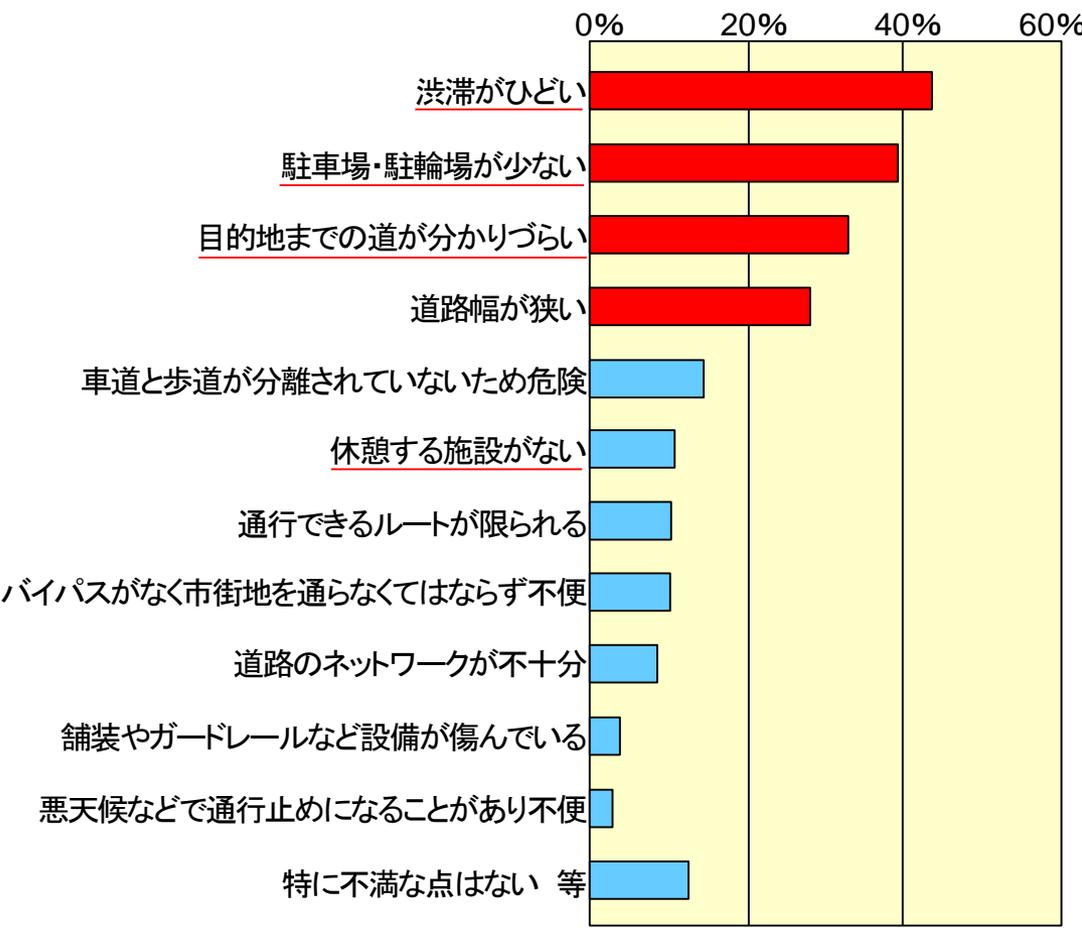
【参考】観光における道路利用の実態と課題

- 観光トリップの大半は乗用車が分担。
- 観光地周辺の道路について、渋滞、駐車場、案内、休憩施設などの不満が上位。

■観光トリップの距離帯別機関分担



■観光地周辺の道路の不満点



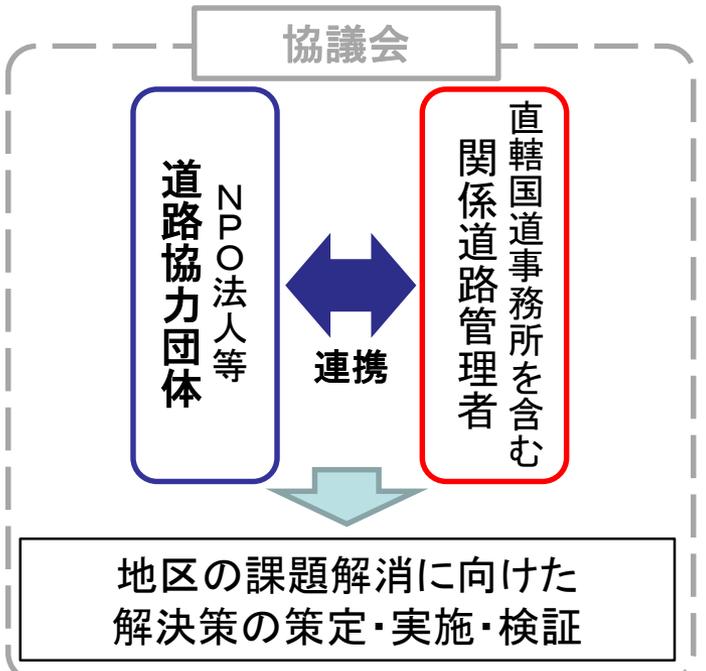
出典) 幹線旅客純流動調査(2010)

出典) 自動車工業会アンケート調査(2008)

【参考】賑わいの創出のための担い手確保

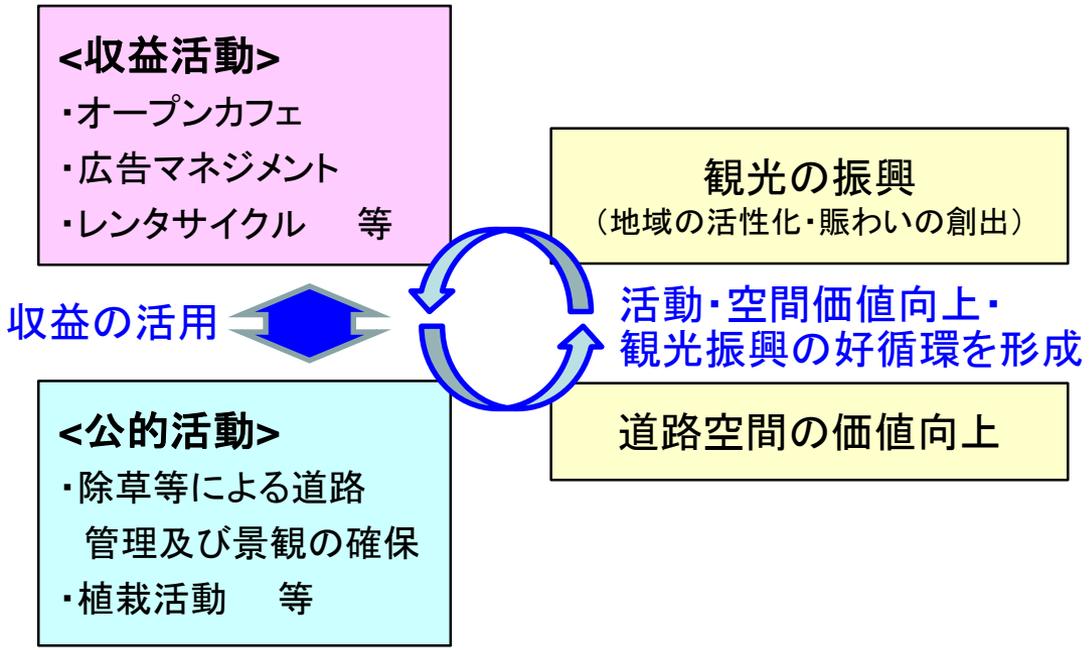
- 道路協力団体(仮称)は、道路管理者と連携して、道路工事、道路の維持、利用者等の利便増進、情報収集・提供、調査研究、普及啓発等に関する活動を面的に実施。
- 地区の道路の使い方や課題解消に向け、協議会を活用するとともに、インセンティブを付与。

道路協力団体と道路管理者の連携



※協議会: 法定の協議会を設置して連携強化

道路空間の活用イメージ



道路協力団体のインセンティブ

道路協力団体の業務に必要な道路工事施工承認および道路占用許可について、活動の円滑化を図るため、柔軟に対応